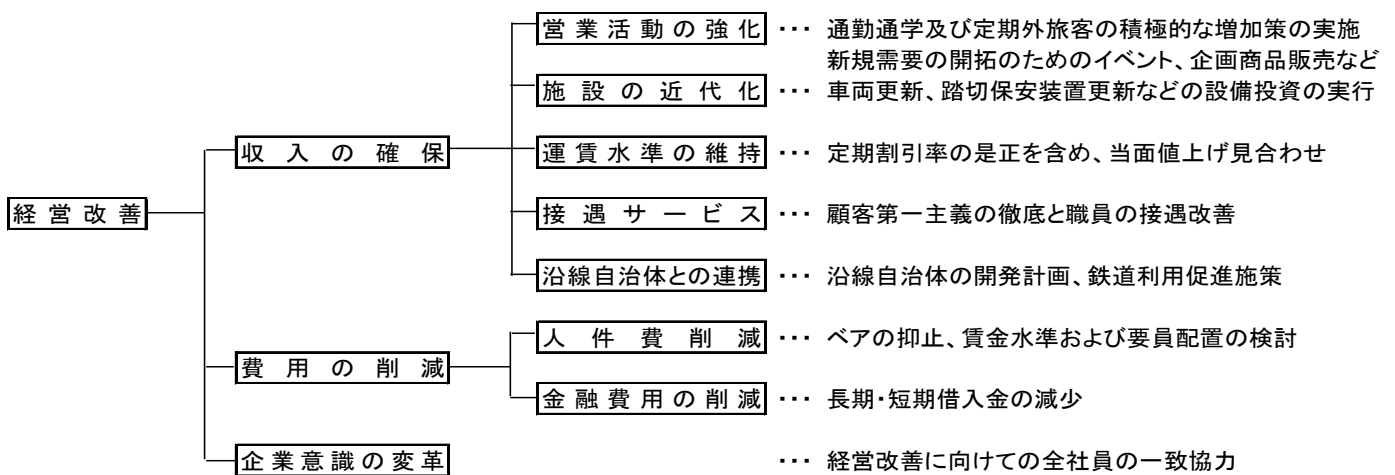


## 上毛電気鉄道 経営再建計画について

### [ 1 ] 経営再建計画の要旨

#### 1 経営再建計画の基本的な取り組み

当社は、平成 10 年度を初年度とする 5 か年間の第 1 期経営再建期間、平成 15 年度を初年度とする 5 か年間の第 2 期経営再建期間、平成 20 年度を初年度とする 5 か年間の第 3 期経営再建期間、平成 25 年度を初年度とする 5 か年間の第 4 期経営再建期間に続き、平成 30 年度を初年度とする 5 か年間の第 5 期経営再建期間と位置付け、現在の厳しい経営環境から脱却するため、収入の確保、費用の削減、企業意識の変革等を柱に、以下の事項を経営再建計画の基本として取り組むこととする。



#### 2 経営再建計画策定の前提条件

- (1) 輸送人員 平成 26～28 年度の対前年の変動実績をもとに、今後も企業、学校訪問による定期旅客増、鉄道の各種ツアー等による定期外旅客増等を考慮し想定した。
- (2) 運 行 30 分間隔の現行ダイヤの維持
- (3) 運 賃 定期の割引率を含めた現行水準の維持(消費税率改定に伴うものは除く)
- (4) 人件費 全社一体となった削減努力の継続
- (5) 修繕費 安全確保に必要な修繕の実施
- (6) 東武鉄道の支援 東武鉄道出向者の人件費全額負担の継続

#### 3 経営再建計画の収支想定

経営再建期間中の各年度の収支計画については [別紙の表 1] のとおり想定した。

#### 4 鉄道安全輸送設備等の整備

平成 30 年度以降 5 か年間の鉄道安全設備等の整備投資の内容は、車両の更新、踏切保安装置の更新、レールの重軌条化、鉄柱のコンクリート柱化を [別紙の表 2] のとおり計画した。

## 5 サービスの改善への取り組み

鉄道のお客様に対するサービスの改善については、次のとおり取り組むものとする。

- (1) 輸送環境の向上・・・車両の更新、踏切更新、重軌条化、電車線支持物の改善等による安全の確保
- (2) 現行ダイヤの維持・・・ 利便性確保のため、現行の 30 分間隔ダイヤの維持
- (3) 職員教育の実施・・・ 「安全なくして存続なし」をモットーにした安全教育と併せて、お客様への接客教育にも努めていく

## 6 自治体の沿線開発等の鉄道利用促進策に対する積極的な協力

今後とも群馬県ならびに沿線自治体と連携して、沿線開発促進など鉄道を活かす地域づくりへの取り組みに対して積極的に協力する。

### [2] 経営再建計画実施の効果

昨今、乗客の減少は緩やかになってきたものの別紙の[参考]のとおり、全体としては減少傾向が続くことが想定される。平成 30～34 年度についても、鉄道事業は経常損失が見込まれるが、これまで以上に収入の確保、人件費を中心とした費用の削減に努めるとともに、沿線自治体等による鉄道基盤設備維持費等の御支援により、収支の均衡が図れるので、上毛線の安全な列車運行の確保が可能となる。

### 令和 2 年 3 月計画変更

車両代替新造については、受注可能なメーカーが不在のため、本計画期間は実施せず、鉄柱のコンクリート柱化、レールの重軌条化を前倒して実施することとして計画を変更（車両については、次期経営再建計画期間の中での更新を検討）

上毛電気鉄道株式会社